

第 1 1 回長野県安曇野地域における公共交通システム構築のための検討会 会議概要

1	委員会名	長野県安曇野地域における公共交通システム構築のための検討会 会議
2	日 時	平成 19 年 11 月 16 日(木) 午後 1 時 30 分～2 時 35 分
3	会 場	安曇野市堀金総合支所 301 会議室
4	出席者	奥山委員、三村委員（代）池田委員、小林委員、小岩井委員、耳塚委員、樋口委員、 甕委員、尾台委員、二木委員、小平委員、米倉委員、岡村委員、水谷委員、斉藤委員、 古岩井委員（代）勝家委員、宮崎委員、曲淵委員、土肥委員、堀田委員、久保田委員、 上手委員（代）清水委員、 国出席者（委員以外）石崎主席運輸企画専門官 市出席者（委員以外）二木企画政策課長、猿田課長補佐、上條係長、中山主事 NTT 出席者 峰村、矢沢、木内
6	公開・非公開の別	公開
7	記者	1 人
8	傍聴	0 人
9	会議概要作成年月日	平成 19 年 11 月 20 日

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会 (石崎首席運輸企画専門官)
- (2) 挨拶 (奥山教授)
- (3) 議題 (事務局)
 1. 試行運行状況について
 2. 観光ワーキンググループ開催状況について
 3. その他
- (4) 閉会 (石崎首席運輸企画専門官)

2 協議概要

1. (1)試行運行状況について（事務局より説明） ……資料 1、資料 2-1、資料 2-2

<資料 1	「試行運行状況」
資料 2-1	『あづみん』 未利用者アンケート結果
資料 2-2	『あづみん』 1 回利用者アンケート結果 >

- a) 資料 1 に基づき、この一か月間の試行運行状況が報告される。
 - ・直近の一か月、10 月 10 日から 11 月 9 日までの合計利用者数は 5,592 人であった。そのうち女性が 4,466 人で、率は 79.9%となった。男性は 1,097 人で、率は 19.6%であった。受付段階で未登録だった方 29 人は不明としてあり、率は 0.5%であった。
 - ・その前の一か月間においても女性の割合が 80%であり、大きな変化はない。
 - ・直近は運行日 23 日間で 1 日の平均乗車人数は 243.1 人であり、その前と比較して 1.22%の増加であった。人数としては 1,811 人の増である。
 - ・料金別で見ると、無料の利用者の方は 26 人、100 円の方が 1,373 人、300 円の方が 4,193 人であった。
 - ・小学生あるいは障害者者手帳をお持ちの方である 100 円での利用者の割合が、直近では 24.6%であった。その前は 22.2%であり、若干伸びてきている。
 - ・区域別路線別利用者数は、豊科地域が 1,421 人、穂高地域が 1,476 人、三郷地域が 495 人、堀金地域が 1,299 人、明科地域が 872 人で、29 人の方が不明であった。
 - ・これまでの利用人数は堀金地域がトップであったが、直近では穂高がトップ、2 番目が豊科となっており、デマンド交通事業を継続している堀金地域以外にも浸透してきていることが分かる。
 - ・年代別利用者数を見ると、やはり 60 代～80 代の高齢の方が多い。100 代にも数字が入っているが、これは生年月日が不明の会員をここに入れたということであり、実際には 100 代の

- 利用者はいない。
- 年代別の実利用者数は、豊科地域は 300 人、穂高地域は 343 人、三郷地域は 121 人、堀金地域は 281 人、明科地域は 198 人であった。不明の方はシステム上 1 人とししかカウントされな
ないが、実際には 29 人いる。
 - 実利用者数について直近とその前を比べると、堀金以外の 4 地域は増加している。
 - 資料には載せていないが、この一か月で一番利用回数が多かった方は 55 回の利用であった。
乗り継ぎ利用で他地域の整骨院に通われているという話を聞いている。次点は 50 回、3 番目
は 46 回の利用と毎日のように利用している方が見受けられる。
 - 登録数については、10 月 10 日現在 21,651 人である。その一か月前は 20,851 人だったので、
800 人の増である。人口の 21%以上の方に登録をしていただいている。
 - 乗降場所のランキングでは、前回と同様日赤病院やスーパーマーケットが 1 位、2 位を占め
たが、その外では前回ランキング外だった場所が入ってきたり、また順位を上げたりという
状況である。福祉施設への通所にも多く利用されるようになってきている。
 - 定時定路線の豊科田沢線では、利用者が前回の 43 人から 59 人と若干増加した。穂高明科線
は 142 人まで利用を伸ばしており、通勤定期、通学定期を購入しての利用の方も見られる。
 - 明科のスクールバス兼用の定時定路線は、スクール利用の方が 62 人から 114 人に増加した。
- b) 資料 2-1 に基づき、「あづみん」未利用者アンケートの結果が報告される。
- あづみん未利用者の中から無作為に 100 人を抽出し、11 月 1 日付でアンケートを送付した。
 - 締切が 11 月 9 日と短期間ではあったが、55 人の方から協力をいただいた。
 - 回答は女性の方からやや多く寄せられた。年代は 70 代が半数を超え、以下 80 歳以上、60
代と続く。
 - 各地域の利用登録者数に基づいて無作為抽出をしているので、回答もバランスの良い割合で
得られた。
 - 利用しない理由は、「自家用車、オートバイを使っている」が最も多く 46.8%であった。利
用機会がなかった方も 36.2%いた。「利用に不安がある」「利用方法が分からない」との回答
も 4.3%ずつ得られた。
 - 利用しない具体的な理由として「今ひとつ分からないところがある」「介助者がいない」や、
死亡、長期入院というものがあつた。
 - 不安な点として、駅や病院に行く場合に時間があてにならないというような、時間に関係す
るものがいくつかあつた。また「山手線や松本 100 円バスのように起点～終点・時刻表で動
く方がよい」という意見があつた。
 - 友人知人が「あづみん」を利用したことがあるかという問いでは、「はい」という回答が 42%
であった。その内で自分も利用してみたいと考えている方が 85.7%いた。
 - 今後の利用予定があるという方も 80%を超えていた。
 - 今後の利用予定がない理由としては、まだ歩けるから、車の運転が出来るからといったもの
や、希望する時間にタクシーのように利用できないと思うからといったものがあつた。しか
し中には、一度は使ってみたいという方もいた。
 - 「あづみん」についての意見や要望として、24 件の回答をいただいた。「車の運転が出来なく
なったら利用したい」「時間に相当余裕を持っていなければいけないことが心配だ」などとい
う声や「定期巡回の方が利用しやすいと思う」という意見があつた。中には「堀金地域で以
前から引き続き利用しており、本当に便利で助かっているが、他地域には面倒がっている方
が多くて驚いている。申込方法や便利さを説明している」という方もいらつした。
- c) 資料 2-2 に基づき「あづみん」1 回利用者アンケートの結果が報告される。
- こちらも 11 月 1 日に発送し、9 日間の回収期間で 100 人中 67 人と回収率が非常に高かつた。
 - 回答は 8 割が女性から寄せられ、年代は 70 代の方が 6 割弱、以下 80 歳以上、60 代と続く。
 - 2 回目以降利用しない理由としては「家族または別の移動手段が出来たから」が最も多く、
26.9%であった。
 - その中で一番問題となる「嫌なことがあつたから」が 5.8%で、具体的な事由として 4 件寄
せられた。「時間、予約が取れないので帰りに困つた」「帰りの時間が分からないが携帯電話
を持っていないので電話をする暇がなく困つた」「時間の遅れで約束が守れない」「朝はタク
シーでないと病院の予約時間に間に合わない」といったものであつた。

- ・その他利用しない理由として「その時によってはあちこち回りながら行くと聞いたので、時間が気にならないときにまたお願いしたい」「5～6 km くらいなら自転車を利用し、用事なるべく家人のいる土日に済ませるようにしている」「土日に出かけることが多いから」といったものが出ていた。
- ・前回の利用目的は通院という方が 6 割を超え、圧倒的であった。買物、知人宅訪問なども多かったが、他にも銀行や美容院など様々なことに利用されていた。
- ・予約が必要な点については「気にならない」「ほとんど気にならない」を合わせると 7 割に達し、概ね理解を得られているという結果となった。
- ・予約の難易度は「簡単」「概ね簡単」という方がほとんどであったが、5%弱の方が難しいと感じていた。
- ・難易度についての具体的な意見として「帰りの予約が心配である」「時間がかかりすぎているようだ」というものがあった。
- ・オペレーターの対応については、「良かった」「おおむね良かった」を合わせると 96.8%と圧倒的であった。しかし「運行日を間違えた」という事例も一件寄せられた。
- ・運転手の対応も「良かった」「おおむね良かった」という声がほとんどであり、乗合いについても圧倒的多数の方から理解をいただいている。以前行った、利用者に対するアンケートの結果と同様の傾向が見られた。運転手に対する意見としては「声をかけてくれて嬉しい」「親切だ」という好意的なものが多かったが、中には「道をもう少し知っていただけたら」「『一人かい』と言われ何だか悪い感じがした」といったものが見られた。
- ・料金については、「安い」「おおむね安い」を合わせると 9 割弱となった。
- ・外出機会が増えた方は 77%で、増えたか変わらないという傾向にあると言える。
- ・料金の希望として 4 人の方が 200 円と回答した。
- ・行動範囲は変わらないとした方が 8 割を超えていたが、広がった方のほうが狭くなった方より多かった。
- ・「あづみん」の良い点は「家まで迎えに来てくれる」が 8 割を超え、圧倒的であった。
- ・今後も利用する意思のある方が 84.6%で、あづみん以外の移動手段があるという方は 5 割を超えていた。
- ・今後も利用する理由としては「便利だし親切で、乗車賃も納得できるから」など、また利用しない理由として「タクシーはすぐ来てくれるがあづみんは不安だ。タクシー券の方が良かった」「待ち時間のロスが多く何回も乗り換えなければならないから」などという声があった。
- ・「あづみん」への意見・要望として 45 件寄せられた。予約した便が 2 時間待っても来なかったのが帰りに困ったというお叱りや、何回も利用する中で運転手の対応に差が見られる、乗客のマナーも大切であるといったもの、また逆に「今まで自転車に乗るしかなかったのであづみんはありがたい、運転手さんや計画をされた皆さんに感謝の気持ちを伝えて欲しい」と 80 歳の方から手紙形式で言葉をいただいている。

座 長：資料 2-1 で未利用者に対するアンケート結果、資料 2-2 で 1 回利用の方に対するアンケート結果についてご報告をいただきました。非常に短期間でのアンケートではございましたけれども、回収率がいずれも 5 割を超えて、1 回利用の方は 7 割近く、今も返ってきているとのことですので、かなり関心があるということだろうと思っております。これにつきまして何か確認、質問等ありましたらお出しいただきたいと思えます。

宮崎委員：1 回利用者のアンケートを見ると、1 時間半以上遅れてきているとの文言があり、また嫌なことがあったとの回答も 6%近くいるとのことですが、基本的には 1 時間に 1 本運行しているわけですので、1 時間以上遅れるということは想定していない気もします。それは特殊な例なのか、それとも比較的許容範囲になっているということで、当初のやり取りと比べれば遅れる状況があるのか、そのあたりを確認させていただきたいです。

事務局：オープニングから前回報告させていただきました一か月間くらいは極めて様々なトラブル等がありました。具体的な事例としまして、自宅にいるからということでお迎えに行ったのですが、利用登録用紙に記載していただいた住所とは別の場所に本宅があって、そちらで待っていらっしやっただけで、行き着くことが出来なかったことがありました。また、西友というスーパーで待っているからと予約をいただいたので行ったのですが、市内には西友がご承知のよう

に何軒かあります。それで、お待ちになっていたのはお迎えに行ったのとは別の西友だったというトラブルがありました。

教授からも以前から、いろいろな課題を丁寧の一つひとつクリアしていかないと駄目だよというご指摘を受けておまして、現在もそれを積み重ねております。あるいは前回も報告させていただきましたように、社協さん主催の運行委員会で、課題を一つずつ解決しておまして、今現在クレームのような電話やお問い合わせもかなり減ってきています。先程のような特殊な事例が全くないわけではないですが、オープン当初の状況と比べればかなり減ってきているのだろうと考えております。

座長：その他何かありましたらお出し願います。

岡村委員：前回出席出来なかったのですが、今お聞きしてかなり順調に来ているなという気がします。今の宮崎さんの質問に繋がることなのですが、苦情にしる特殊なケースにしる、当初に比べれば減ってきているのは結構なことです。そこで、特殊な場合には何らかの形で、気持ちの上で答えるような方法を考えるかどうかということです。そう何十件もある話ではないのですから。例えば1時間待ちましたというような人に対して、「理由がこういう訳だったので」と通じ合っていていき、それをベースにしていかなければ、片方に「そうは言っても、このあづみんという制度は…」という思いがいつも付きまとっているのであれば、やはり理想的な伸びは期待できないだろうと考えるわけです。頻繁にある案件でないものへの対応というのは、考える必要があるのではないのでしょうか。時間とか経済的にはそうないでしょうが、心の通じ合いというようなものも考えた方が良くという気がします。

事務局：おっしゃるとおりだと思います。貴重なご意見をありがとうございます。今、オペレーターさんや運転手さん等にも一生懸命取り組んでいただいております。今のようなエラーケースがあっても、緊急で空いている車両を廻して対応させていただくなどしております。今も毎日、朝夕運行が始まる前と後にミーティングを行っており、その日あった課題や対応方法、今後どうするかといった話し合いを繰り返しております。細かい丁寧な対応に努めていきたいと思っております。

水谷委員：今平均に乗っているのは何人くらいですか？ また、1回移動するのに何箇所停まって出発するのですか？

事務局：それは1台あたりの平均というお話だと思いますが、ケースバイケースです。例えば午後は比較的空いてきます。全体の約7割はお昼前までに利用されますので、その間はやはり多いです。ただ、例えば15人乗りの車両ならお客様を13人まで乗せることが出来るのですが、通常1時間では6人から7人乗せると大変な状況になります。1か所から何人かまとまって乗車され、一緒に降りていくのであれば、満席でも運行できますけれども。基本的には大勢の方を乗せるよりも、例えば5人くらいを乗せて一定の時間内で運行し、利用者の方には車の中でお待ちいただくよりは自宅等で次の便をお待ちいただくほうが良いと思っておりますので、ドライバーさんやオペレーターさんに調整していただいております。そのような運行に努めているということです。

水谷委員：それはどのくらいが経過したら限界だと考えているのですか？

事務局：それはその都度、走行ルートやお客様のニーズによっても違います。そのあたりは2か月経ってオペレーターさんやドライバーさんにも随分慣れていただいております。逆に利用者の方も随分慣れてきて、利用の方法についてもだんだんイメージが分かってきていらっしゃるのかなと思っております。ケースバイケースなものですから、一概には何ともお答え出来なくて申し訳ありません。

尾台委員：今のお話に関連いたしますが、穂高地域は大変広いということもありまして、ワゴン車の15人乗りを何台か配置していただくと大変ありがたい状況です。しかしやはり時間の遅れですとか、予約が取れないという状況があります。これは運行範囲が広いために大勢を乗せてしまう

と1時間の間に廻りきれない、また次の準備が出来ないということもあり、人数は数人しか乗せられないのだということを運転手さんから伺っています。この点からも、車両をどのように使うかということが重要になってくると思います。15人乗りはある程度一箇所で大勢乗るような場所に廻し、穂高のような広い地域を廻るには時間がかかるわけですから、1時間程度で廻れる人数を考えて相応しい車を使うというように、これまでの配車方法とはちょっと違う方法も考えていくべきではないかと思います。

事務局 : ごもったも意見だと思います。実際には車両の都合もありますし、運転されるドライバーさんに極端な負荷をかけて無理なことも出来ません。常識的な範囲があると思います。そのあたりも今後、事業者の皆さんと運行委員会等で更に知恵を絞った方法を探っていきたいと思っております。

座 長 : 恐らく小型車両の方が適している場所等ありますし、利用者の方の中にはジャンボ型や小型バス型の車両よりも常用普通タクシーの方が良いとおっしゃる方もかなりいらっしゃいます。これは余裕のある場合には借上げ台数を増やして対応することも出来るのですが、どこを折衷するかという一つ重要なポイントだろうと思います。やはり慣れてきますと、平均2~3人で、7~8人の乗車も充分出来るようになってきますので、安曇野地域のあづみん運行パターンが落ち着くまでには、多分半年くらいはかかるのではなからうかなと思っております。その他何かありましたらお出しいただきたいと思っております。

甕委員 : 定時定路線の運行状況についてです。豊科田沢路線がまだまだ利用者が少ないようですが、一般市民の方々の中にも、そういう路線があるということ自体認識のない方が大勢いらっしゃいますし、中には「あづみん」と混同されているような方もいらっしゃいます。今度のシステムは自宅の庭先まで送り迎えをしてくれると、「あづみん」に関しては一定の理解をされているようですが、駅前やインターのところに来た新しいバス停は何なんだい？ と言うような方も実はいらっしゃるのです。なので定時定路線についても、「あづみん」並に告知をされた方が、通勤や通学などで一定の利用者も安定して望めるとは思いますがいかがでしょうか。

事務局 : ありがとうございます。PRするに越したことはないと思いますので、事務局としても知恵を使いながらまた対応していきたいと思っております。

座 長 : その他何かありますか？ それではまた後で一括して質問の時間を取りたいと思っておりますので、その他ということで何かありましたら事務局の方からお出しいただきたいと思っております。

事務局 : 前回お話をしましたが、利用者へのアンケート調査を11月下旬に予定しています。その後、同様のものを来年1月にも考えています。あづみんには同乗して調査し、定時定路線はドライバーに協力してもらい、車内にアンケート用紙を置いてもらい対応いたします。希望、不満等を拾い上げていくことが目的です。

もう一点、「あづみん」の冬場の運行に関してです。新システムが始まる前にも堀金地域で「うららカー」を運行していましたが、冬場に雪が降った場合、どうしても車の運行が無理な場所がありました。その度にチェーンを着脱するのは現実的に無理なことであり、そのような場所については、申し訳ありませんが通常運行が出来るところまで歩いて出てきていただくようお願いをしておりました。今回の新システムでも、具体的にどのあたりの地域というお話は出来ませんが、そういったお願いをさせていただく時期が来ています。該当の方々には文書を配布するなり、予約をいただいたときをお願いをするなり、ご相談させていただきたいと思っておりますので、ご承知おきいただきましてご協力をお願いいたします。

座 長 : 乗車してのアンケートを11月末と1月に行うということと、冬季間の積雪等々で運行出来ない道路状況の地域には一定の制約と言いますか、場所まで出てきてもらうというような形で運行をしていくということをございます。何かありましたらお出しいただきたいと思っております。具体的にはペーパー等で周知するというところでよろしいでしょうか？

事務局 : 具体的にお願いをしなければいけない皆様にはそのような通知をするなり、予約等をいただい

たときにご相談させていただきたいと思っております。

座 長：そういう対応でやっていきたいということでございます。よろしいでしょうか。
それでは議題（2）の観光ワーキンググループ開催状況について、事務局の方から説明をお願いします。

2. 観光ワーキンググループ開催状況について（事務局より説明） … 資料3
<資料3「観光ワーキンググループ会議内容」>

- a) 資料3に基づき第2回会議内容が報告される。
- ・議論した内容は大きく分けて3項目であり、山岳観光について、観光アンケート内容について、次回への課題というものであった。
 - ・山岳観光については、登山客の現状や問題点への対策、特に駐車場や道路関係に対して様々な意見が出された。
 - ・引き続き理想としてどのような方策があるのか、今すぐ対応出来るものにはどのようなものがあるのかという議論を繰り返し、山岳観光の問題点を整理していきたい。
 - ・観光アンケートは昨年行ったが、もう一度今度は宿泊施設、観光客等ポイントを絞ったヒアリングなりアンケートを行いたいという話し合いを行なった。本当は今日までに実施して、結果を示すことを考えていたのだが、課題等を整理する必要があり、現在のところ実施まで至っていない。

座 長：今年度の一つの大きなテーマでございます観光の交通の問題点を洗い出しながら、どういうことが出来るのかということで、観光ワーキンググループというものを作らせていただいて、今2回ほど進めてきたところでございます。前回の観光ワーキングでの会議内容を、ペーパーにまとめて報告させていただいているということです。何かこの点につきまして確認あるいは要望等ありましたらお出しいただければと思います。

宮崎委員：観光ワーキングの中でもパークアンドライドと言いますか、車から乗り換えることも考えられないかという話も出ています。先程の定時定路線では専用駐車場を設けて一応パークアンドライドの試みをしているんですが、この資料を見るとほとんど利用されていません。やはりそこに何か問題があるのかというところをもう少し詰めないと、観光ワーキングでこれから考えていく中でも、見えてこない部分があるのではないのでしょうか。今の定時定路線の場所が悪いのか、時間が悪いのか、それともアピールの仕方が悪いのか、そのあたりの認識と対策をどう考えなのか確認させてもらいたいのですが。

事務局：そのあたりにつきましても、今後もう少し調査あるいは議論させていただく中でと思っております。この場でお答え出来る範囲をちょっと超えておりますので、ご了解いただきたいと思います。

座 長：定時定路線について先程ご指摘のあったとおり周知徹底がなされていない点もあります。また前々から定時定路線というものに対する需要、ニーズと言いますか、何らかのかなりの魅力あるいは制約が必要にならない限り移行してこないという他地域のデータもあります。これは定時定路線の一定のタイミングでの利用状況並びに状況の原因を、事務局として一旦整理をさせていただいて提示します。パークアンドライドを入れているのですが、何故駐車場とセットのものが利用されないのかも含めて、事務局でまとめて行きたいと思っております。また、この観光ワーキングの中のパークアンドライドというものは、おそらくこれからの議論になると思いますけれども、一定の制約と言いますか、もし導入するときには行政としてかなり思い切った方策を入れてやっていくという方向でなければ利用されないという可能性もあると思います。よって利用者にとっての魅力と同時に一定の制約と複数的に考えていくことが必要になってくるのではなかろうかな、と思っております。そのあたりも議論させていただければと思っております。
その他ありましたらお出しいただきたいと思います。このあたりも含めてかなり地元でも重いテーマになっておりまして、これから着実にフォローアップしていきます。調査並びに基本的

な現状をしっかりと捉えるということで、追加的にアンケート、ヒアリング調査等やらせていただくということで、今日もこの後ワーキングをしたいという風に考えております。またこの検討会には、その都度ご報告をさせていただくということでお願いしたいと思っております。今日の議題（１）、（２）と終わりました。併せてでも構いませんし、次回に向けて要望等出していただければと思います。

小岩井委員：NTTの受付システムについてお伺いします。先程雪のお話がありましたが、これから冬になって雪も降るだろうということで、今のGPSシステムの中では距離と時間というものは把握出来ているのでしょうか？例えば、通常A地点からB地点までは何kmくらい走って何分かかるかと。そういうことは管理されているのでしょうか？

NTT東：技術的にそのあたりを把握しておらず、一応GPSで場所の管理はしているということしか今お答え出来なくて申し訳ありません。

小岩井委員：世の中にそういったことを管理出来ているシステムもあるものですから。通常AからBの距離は5kmで10分で行くということでしたら、例えば20分かかっているというのには何らかの理由があるということになりますし。雪が降ると通常滅茶苦茶になってしまうと思うんですよ。そのあたりを運営に役立てることが出来るかなと思ったものからです。

座長：それはシステム上入れられる機能なのですが、多分安曇野のシステムには入れていないと思います。他の地域の場合にGPSで走った距離数などを自動的に計算することはあまり必要ないということだったので、落とした経緯がありますので。

NTT東：今座長の方からお話していただいたとおりでございます。実はこの機能につきましては、当初システム組み上げに必要かというお話がありました。しかし地域道路の季節によっての変動、あるいは道路工事によっての変動に関する情報が、やはり地域のドライバーさんやオペレーターさんに勝るものはないということでしたので、私どものシステムはその部分は落として表示を簡略化し、地元の方に委ねる、頼るというコンセプトで造っております。そういう意味で言いますと今の時点ではなく、運用していく中である程度お考えいただいて、私どもの方もご協力させていただきたいという考えでございます。

座長：他の地域だと、雪深いところを運行する場合には、オペレーターのそれぞれの端末画面上に付箋のようなものが表示されます。例えば除雪車の入る道路は曜日ごとによって変わっておりますので、今日はこちらの道路に入っているのですそこは運行するけれども、入っていないところには行けませんというような形で、それぞれのアナログ情報で対応しているということです。その他何かありましたらお出しいただきたいと思っております。それでは事務局の方から、その他として伝えたい事項があるということなのでお願いいたします。

3. その他 今後の方向性について（事務局より説明）

事務局：この検討会は平成17年7月に第1回目が開かれ、任期は平成20年3月31日ということになっていました。

しかし事務局としては、観光に関する問題や近隣市町村への移動の問題も継続して話し合う必要があり、また現在の試行運行状況も都度確認していただきながら、改善改良を加えて今後の本格運行に備えていきたいと考えております。

また国土交通省の方で、再生計画を立てて運行について3年間ほど補助をするという新しい制度が作られる予定であり、その中で市が組織している「地域公共交通会議」をその制度に即した協議会に一部変更させていただき、設けることになっている幹事会をこの検討会という位置付けをさせていただくことにより、もう1年続けていきたいと考えております。

具体的には検討会の予定は今年度あと1回となっておりましたが、内部の調整や国土交通省との調整をする中で、来年度以降も引き続きお願いしたいと思っております。

座長：事務局からの提案ということで、この検討会自体の任期が来年の3月末ということになっております。2年間で終了するということがあったんですけども、様々な重たい問題とございますか、

まだ検討を重ねていかなければいけない問題があると同時に、今試行運行している「あづみん」と「定時定路線」含めてもう少しこの検討会で詰めていく必要があるのではないかということです。この検討会の名称は一旦、年明けの3月で終わることになりますけれども、実質同じメンバーの委員の方々にご協力いただいて、更にもう1年検討を重ねていきたいという提案でございます。

そのことについて、委員として委嘱されている方々でございますので、何かありましたらお出しいただきたいと思っております。ご協力要請ということになりますけれどもよろしいでしょうか。もう1年こういう形で地道な検討を重ね、詰めていくということで、ご協力をお願いしたいということでございます。

正式な委嘱等々については、今度3月に地域公共交通会議が開かれますが、私が委員長という形になっているんですけれども、それを行政の長に代わっていただいて、その幹事会という形でこの検討会を動かしていきたいということです。またそのときには通知が行くと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

観光ワーキングを含めてまだまだ議論が足りませんので、後からご提示がありますが、次の会議を2月ということで予定していきたいと思っております。その前に観光ワーキングをもう一度詰めて、更に2月に検討会並びにワーキングを開催したい。そして名称は変わりますが3月に公共交通会議という形で予定したいという流れになっているということです。何かありましたらお出しいただきたいと思っております。

それでは用意した議題が終わりましたので、事務局の方にお戻ししたいと思っております。

事務局 : ありがとうございます。次回の検討会のご提案ですが、先程先生の方から総括してご説明がありましたけれども、2月中旬開催を目途に日程調整をし、決まり次第連絡したいと考えております。よろしくお願ひいたします。

大変お忙しいところをお集まりいただきまして、実のあるご議論、ご審議をいただきましてありがとうございました。これをもちまして本日の検討会を終了させていただきます。

以上